

Economic Indicators

発表日: 2021年4月1日(木)

景気動向指数(2021年2月)の予測

～基調判断は上方修正ならず～

第一生命経済研究所 調査研究本部
 経済調査部長・主席エコノミスト 新家 義貴
 (TEL: 03-5221-4528)

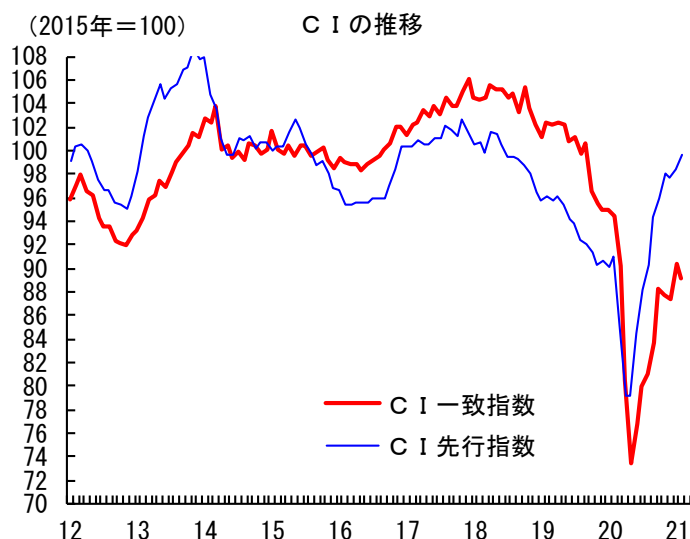
前月の反動や半導体不足の影響で2カ月ぶりの低下を予想

内閣府から4月7日に公表される2021年2月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差▲1.2ポイントと予想する。内訳では、耐久消費財出荷指数や鉱工業生産指数、生産財出荷指数、輸出数量指数など、生産・輸出関連が足を引っ張った。1月に高い伸びとなっていた反動に加え、半導体不足を背景とした自動車の減産も影響しているものと思われる。

基調判断は据え置き

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月に続いて「上方への局面変化」となるだろう。基調判断が「改善」へと上方修正されるためには「原則として3か月以上連続して、3か月後方移動平均が上昇」かつ「当月の前月差の符号がプラス」との条件を満たす必要がある。2月については、C I一致指数が0.1ポイントでも上昇すれば基調判断の上方修正が実現していたが、実際には前月差低下となることで、後者の条件を満たさず、基調判断の上方修正は見送られることになる。

また、3月についても上方修正は見送られる可能性が高そうだ。3月の製造工業生産予測指数(経済産業省試算値)は前月比▲1.4%と2ヵ月連続の低下が見込まれている。C I一致指数の採用系列に製造業関連の指標が多いことから、3月も前月差で低下となる可能性は高く、上方修正の基準を満たすことができないだろう。「改善」への上方修正は4月以降にずれ込む可能性が高い。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2021年2月は第一生命経済研究所による予測値

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

